

# 外科科専門研修プログラム

## サブスペシャリティ重点コース / 消化器外科専門医コース

### (1) コースの全体像

2年間の初期研修終了後、卒後3年目～5年目の3年間を大阪大学外科専門研修プログラムに参加し、大阪大学消化器外科関連施設で2年半外科に関する基礎的な知識、技術を習得する。そして、残り半年間を大学病院で消化器外科に関する専門的な知識、技術を習得する。

その後はa：大学院コース，b：一般臨床コースに分かれる。

- a: 大学院コース 大学院博士課程に入学し、3年間消化器外科に関する研究を行い、1年早く早期卒業する形で博士号を取得する。3年間で博士号を取得できなかった場合には、大学院4年次の1年間を関連施設や大学病院で勤務しながら、博士号を取得し、大学院博士課程を卒業する。
- b: 一般臨床コース 大学院博士課程には入学せず、大阪大学外科専門研修プログラム終了後は外科スタッフとして勤務する。

大学病院研修では、消化器外科の高度で専門的な分野（移植、拡大手術、先進的治療など）を研修する。

関連施設研修では、一般外科研修、消化器癌専門研修、内視鏡外科専門研修担当施設を希望に応じてローテーションする。

- ▶一般外科研修担当施設では消化器外科全般のより実践的な臨床に関する知識、技術を、
- ▶消化器癌専門研修担当施設では消化器癌に特化した、より高度で専門的な知識、技術を、
- ▶内視鏡外科専門研修担当施設では内視鏡下手術を重点的に研修し、高度で専門的な知識・技術を、習得する。

外科専門医、消化器外科専門医に関しては、原則大阪大学外科専門研修プログラムへの参加により取得可能である。

また希望に応じて、がん治療認定医、内視鏡外科技術認定医などの取得も目標とできる。

専門医、博士号取得後は、海外留学、大学病院の教員としてアカデミックサージョンを目指す、あるいは、関連施設にて第一線の外科医として勤務し、指導者を目指す。

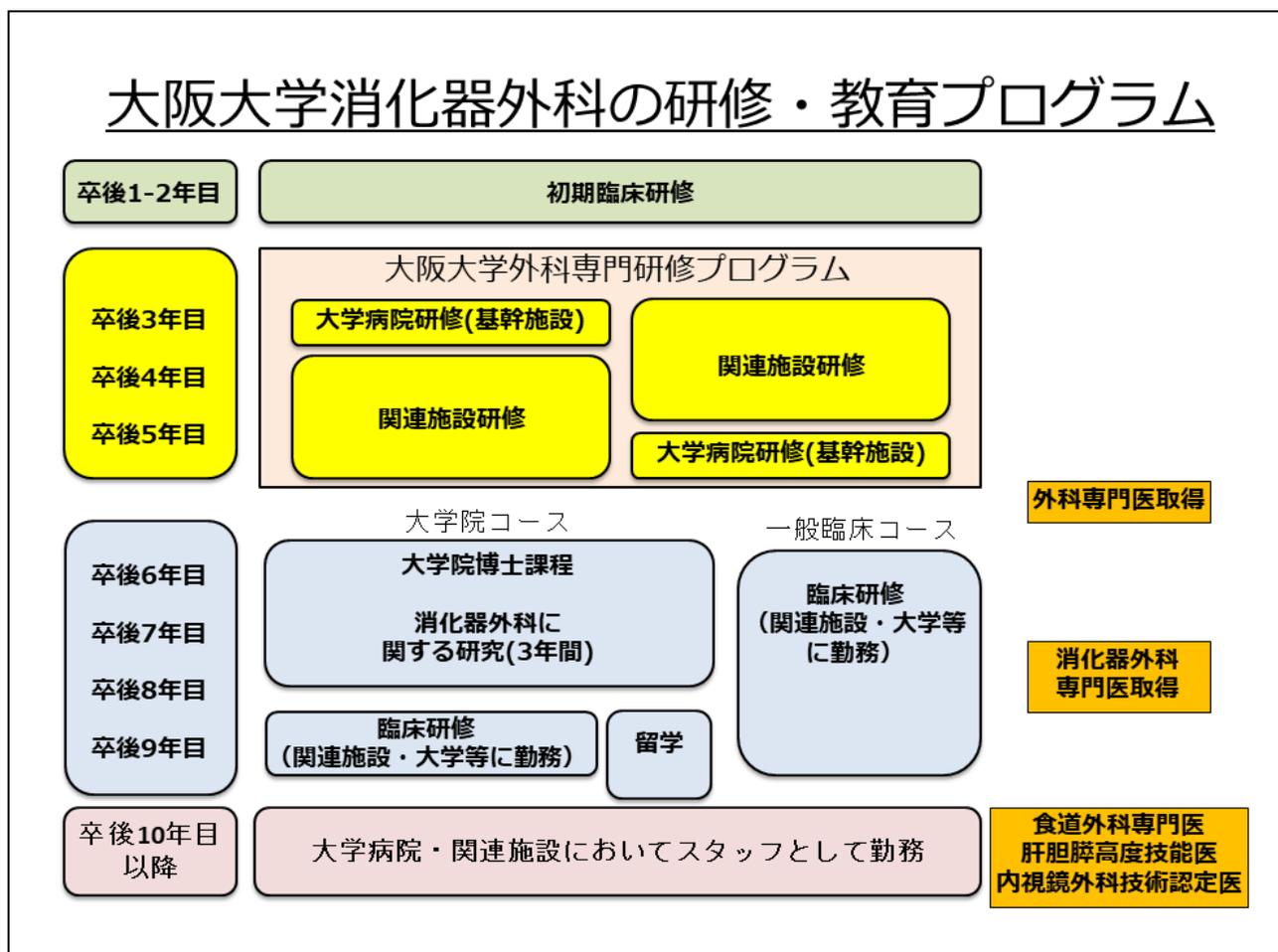
(コース図は次頁参照)

専門医を目指す消化器外科セミナー



真皮縫合コンテスト





(2) コースの概要

コース名： 消化器外科専門医コース  
 (a : 大学院コース (a-1;大学病院コース、a-2;社会人大学院コース) )

医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	大学病院研修	大学院博士課程
				消化器外科の高度専門的知識・技術の習得、外科・消化器外科専門医取得に必要な経験症例の経験	大学院博士課程 消化器外科学に関する基礎・臨床研究および博士号取得
大阪大学消化器外科	消化器外科	23名	30名	15名	30名

コース名： 消化器外科専門医コース

(a：大学院コース (a-1;大学病院コース、 a-2;社会人大学院コース)、 b：一般臨床コース)

医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	関連施設研修		
				一般外科研修	消化器癌専門研修	内視鏡外科専門研修
				一般外科の基礎的な研修ならびに外科・消化器外科専門医に必要な各分野の手術症例の経験	消化器外科、特に消化器癌治療における高度専門的知識・技術の習得、外科・消化器外科専門医取得に必要な経験症例数・学術活動の獲得	消化器外科、特に内視鏡下手術における高度専門的知識・技術の習得、外科・消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医取得に必要な経験症例数・学術活動の獲得
大阪警察病院	外科	13名	9名	○	○	○
地域医療機能推進機構 大阪病院		6名	9名	○	○	○
地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院		5名	3名	○	○	○
地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター		4名	3名	○	○	○
大阪中央病院		5名	3名	○		○
大阪労災病院		7名	9名	○	○	○
大手前病院		5名	3名	○	○	○
川崎病院		5名	3名	○	○	
関西ろうさい病院		13名	9名	○	○	○
近畿大学奈良病院		4名	6名	○	○	○
県立西宮病院		6名	6名	○	○	○
国立病院機構大阪医療センター		8名	9名	○	○	○
大阪はびきの医療センター		3名	3名	○	○	
済生会千里病院		7名	3名	○	○	○
彩都友誼会病院		1名	1名		○	
紀南病院		3名	3名	○	○	○
市立芦屋病院		3名	3名	○	○	
市立池田病院		7名	3名	○	○	○
市立伊丹病院		8名	3名	○	○	○
市立貝塚病院		6名	3名	○	○	○
川西市立総合医療センター	5名	3名	○	○		

前ページより続き

医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	一般外科研修	消化器癌専門研修	内視鏡外科専門研修
堺市立総合医療センター	外科	7名	9名	○	○	○
市立吹田市民病院		6名	6名	○	○	○
市立豊中病院		12名	9名	○	○	○
済生会富田林病院		5名	3名	○	○	○
西宮市立中央病院		4名	3名	○	○	○
日本生命病院		5名	3名	○	○	○
市立東大阪医療センター		7名	6名	○	○	○
大阪急性期・総合医療センター		9名	9名	○	○	○
大阪国際がんセンター		18名	9名	○	○	○
箕面市立病院		8名	6名	○	○	○
守口敬仁会病院		4名	6名	○	○	○
八尾市立病院		9名	6名	○	○	○
りんくう総合医療センター		5名	3名	○	○	○
耳原総合病院		6名	3名	○	○	○
多根総合病院		8名	3名	○	○	○

### (3) コースの実績

大学病院および一般外科研修担当関連施設は外科学会および消化器外科学会認定施設であり、カリキュラムに定められた専門医取得に必要な症例数以上の手術経験が可能である。消化器癌専門研修担当施設は地域癌拠点およびそれに準ずる施設であり、十分な消化器癌症例の経験が可能である。内視鏡外科専門研修担当では内視鏡外科技術認定医の指導の下、内視鏡手術の経験が可能である。また、教育行事の開催、学会や学術誌への研究発表指導なども積極的に行われている。

### (4) コースの指導状況

各施設には外科学会・消化器外科学会の指導医・専門医、内視鏡外科専門研修担当施設には内視鏡外科技術認定医が在籍している。さらに高度専門的技術を要する手術においては大阪大学より指導医が巡回して教育・技術指導を行っている。医師会などの主催する指導医養成講習会へ参加し、指導体制の充実を図っている。また、大学および連携施設の研修指導代表者による研修調整委員会を開催し、履修状況の把握・マネージメントを行う。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	<p>・修練開始登録後満3年以上経た段階で、筆記試験を受験する。</p> <p>・従来日本外科学会が面接試験で行っていた専攻医の医師としての適性や人格の評価を、プログラム統括責任者の責務とし、筆記試験のみが行われる。</p> <p>1) 診療経験</p> <p>(1) 350例以上の手術手技を経験（NCDに登録されていることが必須）。</p> <p>(2) (1)のうち術者として120例以上の経験（NCDに登録されていることが必須）。</p> <p>(3) 各領域の手術手技または経験の最低症例数。</p> <p>①消化管および腹部内臓（50例） ②乳腺（10例） ③呼吸器（10例）</p> <p>④心臓・大血管（10例） ⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10例） ⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚，軟部組織，顔面，唾液腺，甲状腺，上皮小体，性腺，副腎など）（10例） ⑦小児外科（10例） ⑧外傷の修練（10点）*</p> <p>⑨ 上記①～⑦の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10例）</p> <p>注1. 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができる（ただし、加算症例は100例を上限とする）。</p> <p>注2. 術者として独立して実施できる一定数は設定しない。</p> <p>注3. *体幹（胸腹部）臓器損傷手術3点（術者），2点（助手）</p> <p>上記以外の外傷手術（NCDの既定に準拠）1点・重症外傷（ISS16以上）初療参加1点・日本外科学会外傷講習会受講1点・外傷初期診療研修コース受講4点・e-learning受講2点・ATOMコース受講4点・外傷外科手術指南塾受講（日本Acute Care Surgery学会主催講習会）3点・日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講（分野V（外科治療）-C. Trauma surgery）1点</p> <p>2) 業績</p> <p>所定の学術集会または学術刊行物に、筆頭者としての研究発表または論文発表を所定単位。</p>
<p>【学会の連携等の概要】外科専門医は心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科および小児外科などの関連外科（サブスペシャリティ）専門医を取得する際に必要な基盤となる共通の資格であり、広告することができる医師の専門性に関する資格の一つとして、厚生労働省に認可されている。</p>	

学会等名	日本消化器外科学会
資格名	消化器外科専門医
資格要件	<p>・日本外科学会専門医を有する</p> <p>・臨床研修終了後、指定修練施設（認定施設及び関連施設）において所定の修練カリキュラムに従い、通算4年間以上の修練を行っていること（300例以上の診療経験が必要）</p> <p>・必要主要手術および症例数</p> <p>① 食道癌の手術（3例、全て助手でも可）</p> <p>② 胃癌の手術（10例、術者5例を含む）</p> <p>③ 結腸癌の手術（10例、術者5例を含む）</p> <p>④ 直腸癌の手術（5例、全て助手でも可）</p> <p>⑤ 臍頭十二指腸切除術（5例、全て助手でも可）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 肝切除術 (5 例、すべて助手でも可)</li> <li>⑦ 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (10 例、術者 5 例を含む)</li> <li>⑧ 腸閉塞の手術 (5 例、術者 3 例を含む)</li> <li>⑨ 急性汎発性腹膜炎の手術 (5 例、術者 3 例を含む)</li> </ul> <p>・指定の学術集会に筆頭者として 3 件の研究発表をする (2023 年より日本消化器外科学会総会または大会での 1 件が必須)</p> <p>・日本消化器外科学会総会および大会へのそれぞれ 1 回以上参加する</p> <p>・指定の学術刊行物に、筆頭者として 1 編を含む 3 編の論文発表をする</p> <p>・日本消化器外科学会作成の教育講座 (eラーニング) 全6領域受講する</p>
--	---

学会等名	日本内視鏡外科学会
資格名	日本内視鏡外科学会技術認定
資格要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 申請時に日本内視鏡外科学会会員であること</li> <li>2) 日本外科学会専門医かつ日本消化器外科専門医であること。</li> <li>3) 胆嚢摘出術などであれば 50 例以上 (高難度手術 5 例を含む)、大腸切除、胃切除など高難度手術であれば 20 例以上を、術者として経験していること</li> <li>4) 専門領域の内視鏡下の高難度手術を独力で完遂でき、これらの手術の指導ができること</li> <li>5) 本学会並びに関連学会が主催する、あるいはこれら学会が公認または、後援する内視鏡外科に関するセミナーを受講していること</li> <li>6) 内視鏡外科手術に関する十分な業績を有すること</li> <li>7) 申請者の内視鏡手術技術を保証し得る指導的立場にある者 2 名の推薦状</li> <li>8) 術者として最近行った内視鏡手術の未編集ビデオ (1 症例) を提出</li> </ol>

### 腹腔鏡手術体験セミナー



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 消化器外科

担当者 牧野知紀

tmakino@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

担当者 三吉範克

nmiyoshi@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ : <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gesurg/>

